

FELLOWS
2025

世界視力を備えた次世代トップ研究者
育成プログラム

文部科学省「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」

LEINSICHT

Program for the Development of Next-generation
Leading Scientists with Global Insight

L-INSIGHT フェロー

第1期

新井康之 藤井俊博* 五味良太* 磯部昌憲 桂有加子
中野元太 沼田圭司 岡村亮輔 高橋雄介 田中智大

第2期

藤井悠里 平塚徹* 本郷峻 井上浩輔 岩上哲史*
白石晃將 山本暁久*

第3期

江口佳那 藤本花音* 飯間麻美* 宋和慶盛 山田真太郎*
吉光奈奈

第4期

福元健之 後神利志 林和希 齋藤美保 土屋喜生
山下侑吾 安井碧

第5期

マリンエリア 後藤龍太郎 樋口嵩 桑田昌宏 増田容一
高橋知子 田代藍 ターン有加里ジェシカ 宇治梓紗

*他機関へ異動された方々



新井康之 ARAI Yasuyuki

京都大学医学部附属病院／検査部／助教
研究分野：血液内科学

京都大学医学部医学科（2006年）卒。医学研究所北野病院、倉敷中央病院での臨床研修を経て、京都大学大学院医学研究科博士課程修了（血液・腫瘍内科学）。以降、3年間米国国立衛生研究所にて博士研究員として、免疫学研究に従事。帰国後、京都大学医学部附属病院血液内科医員を経て、2018年より輸血細胞治療部（現：検査部・細胞療法センター）助教。造血幹細胞移植をはじめとした細胞療法の開発と応用に取り組む。

受入期間：2020年9月～2022年3月



藤井俊博* FUJII Toshihiro

京都大学白眉センター／特定助教
研究分野：宇宙物理学・宇宙素粒子物理学

大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程修了、博士（理学）取得。宇宙物理学者。白眉研究者。学位取得後、シカゴ大学カブリ宇宙物理学研究所、東京大学宇宙線研究所を経て2018年より現職。専門は極高エネルギー宇宙線観測。南北半球で極高エネルギー宇宙線への最高感度を誇る、テレスコープアレイ実験とピエールオージェ観測所の共同研究者であり、次世代計画であるFAST実験では研究代表者として新型宇宙線望遠鏡の開発を主導している。これまでに日本学術振興会特別研究員DC2、PD、海外特別研究員に採用され、日本物理学会若手奨励賞（2018年）、宇宙線研究者会議宇宙線物理学奨励賞（2018年）受賞。



五味良太* GOMI Ryota

京都大学大学院工学研究科／
都市環境工学専攻環境システム工学講座／助教
研究分野：ゲノム微生物学・環境工学

2016年9月、京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻博士課程修了。以降、同専攻環境システム工学講座環境リスク工学分野に助教として勤務。2018年8月-12月にUniversity of Melbourne、2019年1月-8月にMonash Universityに留学し、河川水中に存在する細菌の一種であるKlebsiella pneumoniaeのゲノム解析に関する研究を行う。現在の研究テーマは、環境水中の薬剤耐性腸内細菌科細菌のゲノム解析。



磯部昌憲 ISOBE Masanori

京都大学医学部附属病院／精神科神経科／助教
研究分野：精神医学

京都大学医学部医学科卒業。臨床研修修了後、精神科医として児童思春期専門外来を担当。京都大学博士（医学）。学位取得後、特任研究員としてケンブリッジ大学行動臨床神経科学研究所・精神科で注意欠如多動症や嗜癲疾患等の臨床研究を行う。帰国後、京都大学医学部附属病院精神科神経科特定病院助教に着任し「児童思春期こころの相談センター」の立ち上げに携わるとともに児童思春期および摂食障害の臨床・研究に従事。2019年11月より現職。



桂有加子 KATSURA Yukako

京都大学ヒト行動進化研究センター／ゲノム進化分野／助教
研究分野：進化遺伝学

総合研究大学院大学先導科学研究科生命共生体進化学専攻5年一貫制博士過程修了、哺乳類の性染色体進化に関する研究で学位論文を発表。日本学術振興会海外特別研究員としてカリフォルニア大学バークレー校、ペンシルベニア州立大学等で博士研究員として勤務。日本大学医学部で助教として勤務後、2019年より現職。進化遺伝学の分野で系統進化やゲノム解析等を専門とする。



中野元太 NAKANO Genta

京都大学防災研究所／
防災研究所附属巨大災害研究センター／助教
研究分野：防災心理学・教育学

京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻博士後期課程修了（博士：情報学）。防災教育・地域防災のアクションリサーチを専門とし、主に高知県、ネパール、メキシコで研究。青年海外協力隊および国際協力機構JICA企画調査員としてエルサルバドルにおける地域防災・防災対策に約3年従事。2019年12月より現職。地域住民ら主体の防災実践を目指して、地域・学校・行政と連携した実践共同研究を行う。



沼田圭司 NUMATA Keiji

京都大学大学院工学研究科／材料化学専攻高分子材料化学講座／教授
研究分野：高分子科学・ケミカルバイオロジー・生体関連科学・
植物科学・オルガネラ工学

東京工業大学工学部高分子工学科卒業（2003年）、同大学院総合理工学研究科にて博士（工学）を取得（2007年）。米国 Tufts 大学 JSPS 海外特別研究員（2008年）、理化学研究所チームリーダー（2012年）、内閣府 ImPACT プロジェクトリーダー（2014年）、JSTERATO 研究総括（2016年）、2020年より現職。高分子の生合成と分解を利用した、高分子の構造化と機能化の研究を進める。主な受賞は、米国化学会 Macro Letters/ Biomacromolecules/Macromolecules Young Investigator Award（2020年）、文部科学大臣表彰若手科学者賞（2018年）等。



岡村亮輔 OKAMURA Ryosuke

京都大学医学部附属病院／消化管外科／助教
研究分野：腫瘍外科・消化器癌・癌個別化治療

2006年奈良県立医科大学医学部卒業後、同附属病院にて初期臨床研修を修了。2008-2013年に消化器外科医として兵庫県立尼崎病院（現：尼崎総合医療センター）で勤務後、京都大学大学院医学研究科消化管外科学専攻にて臨床研究について学ぶ。2017年から3年間、University of California San Diego Moores Cancer Center で Molecular profiling を用いた個別化癌治療についての研究を行う。2020年4月から現職。臨床外科医として働きながら、癌治療の研究に取り組む。京都大学医学博士（2018年）。



高橋雄介 TAKAHASHI Yusuke

京都大学大学院教育学研究科／
教育学環専攻教育認知心理学講座／准教授
研究分野：教育心理学・発達心理学・行動遺伝学

東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了。博士（学術）。京都大学高等教育研究開発推進センター、京都大学デザイン学大学院連携プログラム、京都大学白眉センターにおける任期付きの勤務を経て、2020年4月より現職。専門は、教育心理学・発達心理学・行動遺伝学。人間の心理学的な特徴や精神病的な症状の個人差について、その発達の諸相や発生機序について明らかにしたうえで、それらの遺伝と環境の輻輳について示唆を得るための研究を行っている。



田中智大 TANAKA Tomohiro

京都大学大学院工学研究科／社会基盤工学専攻／助教
研究分野：土木工学・水文学

京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 修士課程修了、博士課程修了。2016年4月より日本学術振興会特別研究員DC2、同年10月より同振興会特別研究員PDを経て2017年3月より現職。研究テーマは豪雨時の氾濫現象の数値解析とその被災リスクの定量化をはじめ、最近では気候変動による日本全国の洪水リスクへの影響評価や経済モデルによる気候変動適応策の評価にも取り組む。2019年 水文・水資源学会論文賞、2020年 土木学会論文賞、水工学論文奨励賞 他受賞。

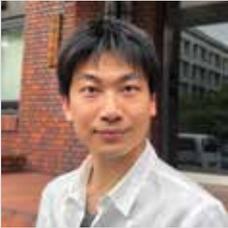


藤井悠里 FUJII Yuri I.

京都大学大学院人間・環境学研究科／
人間・環境学専攻地球・生命環境講座／助教
研究分野：惑星科学・宇宙物理学・天文学

名古屋大学理学研究科素粒子宇宙物理学専攻博士課程修了。東工大地球生命研究所（ELSI）、コペンハーゲン大学Niels Bohr Instituteの研究者を経て、名古屋大学高等研究院にてS-YLC特任助教として研究に従事。2021年1月より現職。惑星や衛星の形成過程の解明を目指し、その形成環境についての研究を行なっている。East Asia Young Astronomers Meeting 2011 口頭発表賞、名古屋大学理学研究科顕彰（2011）受賞。

受入期間：2021年9～12月



平塚徹* HIRATSUKA Toru

京都大学大学院生命科学研究所／
高次生命科学システム生物学専攻／特定助教
研究分野：生命科学

大阪大学医学部医学科（2011年）卒。2015年京都大学医学研究科博士課程修了。マウス皮膚細胞にて細胞内シグナルが伝搬する現象（SPREAD）を報告。同年より英国キングスカレッジロンドンにてヒト皮膚幹細胞の研究に従事。2021年4月より現職。オルガノイドおよび生体組織のライブイメージングを用い、ヒト膵臓癌の予防および新規治療法の確立のための研究に取り組んでいる。2011年大阪大学山村賞、優秀学生顕彰優秀賞受賞。



本郷峻 HONGO Shun

京都大学白眉センター／
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科／特定講師
研究分野：保全科学・野生動物管理学・霊長類生態学

2016年、京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了。博士（理学）。同霊長類研究所研究員、国際協力機構（JICA）長期専門家などを経て、京都大学アフリカ地域研究資料センター特定助教。熱帯雨林に暮らす人々の重要な食糧・収入源である野生動物の持続的な利用と保全のため、自動撮影カメラなどを用いた科学的モニタリングと地域住民の在来知・地域知を組み合わせた野生動物管理に取り組んでいる。2024年4月より白眉センター/アジア・アフリカ地域研究研究科・特定講師。



井上浩輔 INOUE Kosuke

京都大学白眉センター／大学院医学研究科／
社会疫学分野／特定准教授
研究分野：疫学・因果推論・内分泌代謝学

2013年 東京大学医学部医学科卒。国立国際医療研究センター、横浜労災病院を経て、2021年 UCLA 公衆衛生大学院（疫学分野）で博士号取得。同年4月より京都大学大学院医学系研究科 社会疫学分野 助教、2023年4月より同分野及び京都大学 白眉センター 特定准教授。医学部付属病院 糖尿病・内分泌・栄養内科で外来診療にも従事。

国際疫学会の機関誌である International Journal of Epidemiology 編集委員、伊藤病院疫学顧問。主な研究テーマは、因果推論の手法を用いた臨床医学における因果メカニズムの解明・社会背景因子によるその異質性評価。

2023年、MITテクノロジーレビューが選出した、未来を創る35歳未満のイノベーター10名の1人。

受入期間：2021年9月～2024年1月



岩上哲史* IWAKAMI Satoshi

京都大学大学院農学研究科／
農学専攻耕地生態科学講座／助教
研究分野：雑草学

2013年に京都大学大学院農学研究科農学専攻修了。博士（農学）。農薬会社Bayer CropScience (@フランクフルト) ポスドク、筑波大学助教を経て、2016年10月から現職。主な研究テーマは雑草の除草剤抵抗性機構やその多様性の解明。



白石晃將 SHIRAIISHI Kosuke

京都大学大学院農学研究科／
応用生命科学専攻応用微生物学講座／助教
研究分野：応用微生物学・分子細胞生物学

2012年京都大学農学部卒業。2017年同大学院農学研究科博士課程及び思修館プログラム修了。在学中、日本学術振興会特別研究員他。2017年外務省、2018年国連食糧農業機関を経て、2021年より現職。タンパク質代謝・オルガネラの分子細胞生物学と異種遺伝子発現、資源・環境問題解決に向けた応用微生物学研究に従事。2016年国際酵母学会最優秀ポスター発表賞他受賞。2020年に京都大学応援大使の任を拝命。

受入期間：2021年9月～2024年3月



山本 暁久^{*} YAMAMOTO Akihisa

京都大学高等研究院／医学物理・医工計測グローバル拠点／特定助教
研究分野：ソフトマター物理・医学物理

2011年に京都大学大学院理学研究科修士課程修了。同博士課程中途退学後、2015年に博士号取得（理学・論文）。2013年より京都大学物質－細胞統合システム拠点、2017年より京都大学大学院医学研究科にて研究員を務めた後、2018年より現職。専門はソフトマター物理・医学物理。実空間・逆空間の手法によるやわらかい界面の構造・物性測定や、臨床医学の課題に対し細胞の運動や集団秩序をはじめとした物理学的視点から研究を行っている。



江口佳那 EGUCHI Kana

京都大学大学院情報学研究科／システム科学コース／講師
研究分野：医工学・医療情報学・
ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）

2020年京都大学大学院情報学研究科博士後期課程修了。博士（情報学）。2012年に同修士課程を修了後、日本電信電話株式会社で応用研究・開発業務などに約10年間従事。京都大学大学院医学研究科 リアルワールドデータ研究開発講座特定助教を経て、2024年4月より現職。医療・ヘルスケア分野を中心に、ウェアラブルセンシングシステム、生体信号・データ解析に関する研究に取り組んでいる。第34回 電気通信普及財団賞 テレコムシステム技術学生賞 佳作、その他受賞。

受入期間：2022年10月～2024年9月



藤本花音* FUJIMOTO Kanon

京都大学大学院文学研究科／
附属文化遺産学・人文知連携センター／助教
研究分野：実験心理学

京都大学大学院文学研究科行動文化学系心理学専修博士課程修了。博士（文学）。2020年4月より日本学術振興会特別研究員（DC2）、2022年3月に博士号取得後、同年4月より現職。専門は実験心理学。バーチャルリアリティ環境における人間の視覚的な空間認識特性について研究を行っている。

受入期間：2022年10月～2024年3月



飯間麻美* IIMA Mami

京都大学医学部附属病院／
先端医療研究開発機構・放射線診断科／特定講師
研究分野：放射線診断学

京都大学医学部医学科卒業。臨床研修を経て、京都大学大学院在学中にフランス ニューロスピン（超高磁場MRI研究所）に留学の後、医学博士の学位を取得。京都大学白眉センター、京都大学医学部附属病院 放射線診断科での勤務の後、2019年4月より現職。非侵襲的な拡散強調MRIを始めとする様々なイメージング技術を用いて画像の情報を新たに抽出して活用することにより、身体に負担の少ない安全で新たながんの画像診断法を開発している。



宋和慶盛 SOWA Keisei

京都大学大学院農学研究科／応用生命科学専攻／助教
研究分野：生物電気化学

2012年京都大学農学部卒業。2017年同大学院農学研究科博士課程修了。2015年日本学術振興会特別研究員。2017年三井化学アグロ(株)、2019年(株)村田製作所を経て、2021年より現職。生体がもつ基幹機能(呼吸・代謝・光合成)の本質を電気化学的に理解し、生体模倣技術による社会還元を目指す。特に、直接電子移動型酵素による第三世代型バイオセンサの社会実装とCO2資源化。2022年Chem. Commun.誌Outside Front Cover採択。

受入期間：2022年10月～2024年9月



山田真太郎* YAMADA Shintaro

京都大学白眉センター／大学院医学研究科／
健康加齢医学／特定助教
研究分野：DNAの組換え・修復

奈良県出身。2008年東京大学理学部生物化学科卒業。13年同大学院理学系研究科生物化学専攻修了。博士号取得。同大学院総合文化研究科広域科学専攻博士研究員を経て、同年、米国ニューヨーク・メモリアルスローンケタリングがんセンター博士研究員。18-20年京都大学大学院医学研究科とクロスアポイント。18-23年京都大学大学院医学研究科放射線遺伝学助教。23年より同大学院生命科学研究科ゲノム生物学講座特任講師。24年より現職。有性生殖やがん、老化、遺伝子工学の理解につながるDNAの組換えや修復の分子機構を研究している。



吉光奈奈 YOSHIMITSU Nana

京都大学大学院工学研究科／社会基盤工学専攻／助教
研究分野：地震学・資源工学

立命館大学大学院理工学研究科総合理工学専攻修了。博士(理学)。東京大学地震研究所、スタンフォード大学でポストドク研究員として勤務の後、東京大学地震研究所特任助教を経て、2021年より現職。実験室における計測や誘発地震の解析を通して、地震発生過程の研究に取り組んでいる。



福元健之 FUKUMOTO Kenshi

京都大学大学院人間・環境学研究科／准教授
研究分野：歴史学

2024年4月に京都大学大学院人間・環境学研究科に採用されました。専門は、歴史学、より具体的にはポーランド近現代史研究です。ポーランドは、18世紀末にロシア、プロイセン、オーストリアに分割されたのち、1918年になるまで独立を失っていましたが、わたしはその間にポーランドの社会がどのように変化したのかに関心をもち、医師に焦点を当てて博士学位請求論文を執筆しました。最近、その成果を『医師の「献身」：ポーランド建国と草の根知識人（1890-1920）』（京都大学学術出版会、2024年）としてまとめ、現在は、研究をさらに発展させるために環境史に注目しており、L-INSIGHTフェローとしては、環境史を通じた国際的な研究者ネットワークの構築や、学術と社会の連携深化に取り組みたいと考えています。



後神利志 GOGAMI Toshiyuki

京都大学大学院理学研究科／
物理学・宇宙物理学専攻核物理学講座／講師
研究分野：原子核物理・ハドロン物理

2014年、東北大学大学院理学研究科において博士（理学）号を取得。アメリカ・ジェファーソン研究所（JLab）をはじめとして、ドイツ・マインツマイクロトロン、日本・大強度陽子加速器施設（J-PARC）、日本・Spring-8等の世界の先端的な粒子加速器を用いた原子核・ハドロン物理学研究に従事してきた。現在は、京大物理学第二教室の原子核・ハドロン物理学研究室に所属し、JLab、及びJ-PARCにおけるハイパー核生成分光実験研究プロジェクトを国際共同研究チームを先導する形で推進している。



林和希 HAYASHI Kazuki

京都大学大学院工学研究科／建築学専攻建築構造学講座／講師
研究分野：建築構造学・コンピューテーショナルデザイン・建築情報学

2016年京都大学工学部卒業。2017年1-3月 Massachusetts Institute of Technology (Visiting Student)。2018年同大学院工学研究科修士課程修了。2019年6-9月 École polytechnique fédérale de Lausanne (Visiting Student)。2021年同大学院工学研究科博士後期課程修了（在学中、日本学術振興会特別研究員）。2023年9月-2024年8月 École nationale des ponts et chaussées (Invited Reseracher)。2021年より現職。一級建築士。コンピュータの計算能力を駆使した、効率的かつ創造的な建築構造物の設計・施工プロセスを研究・開発している。



齋藤美保 SAITO Miho

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科／助教
研究分野：動物行動生態学・野生動物保全学

2019年、京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了。博士（理学）。日本学術振興会特別研究員（PD）、京都市動物園の生き物・学び・研究センター研究推進員を経て、2022年より現職。野生動物保全における生息域外・域内保全の二つの枠組みから、アフリカでのより流動的な保全活動の実態に合わせた新しい保全の枠組みを構築するため、キリンの仔育て期における対捕食者戦略の可変性の解明に取り組んでいる。



土屋喜生 TSUCHIYA Kisho

京都大学大学院東南アジア地域研究研究所／助教
研究分野：東南アジア地域研究・歴史・ポストコロニアリズム・冷戦研究・境界研究・オーラルヒストリー

2011年法政大学法学部国際政治学科卒。国連東ティモール選挙支援チーム勤務。その後、シンガポール国立大学にて東南アジア研究で修士号（2013年）、歴史学で博士号取得（2018年）。シンガポール国立大学歴史学科においてReconceptualizing the Cold War: On-the-ground Experience in Asiaプロジェクトにてポスドクフェローを経て、2021年10月より京都大学大学院東南アジア地域研究研究所にて助教。

現在までの主著はEmplacing East Timor: Regime Change and Knowledge, 1860-2010 (Honolulu: University of Hawai'i Press, 2024)

Southeast Asian Studies（京都大学）及びDiálogos（東ティモール国立大学）編集委員。米国アジア研究協会インドネシア及び東ティモール研究委員会メンバー。

米国アジア研究協会最優秀若手論文賞受賞（2017年、東南アジア部門）、同学会インドネシア及び東ティモール研究委員会学生論文賞受賞（2018年）。



山下侑吾 YAMASHITA Yugo

京都大学大学院医学研究科／循環器内科／助教

研究分野：臨床研究・精密医療・遺伝疫学・循環器内科学

2010年：京都大学医学部卒業。2010年～2015年：国立病院機構京都医療センターで臨床医として初期研修・後期研修（循環器内科学）のトレーニングを受ける。一方で、臨床現場での未解決な問題を研究という形で解決する必要性を感じ、2015年より京都大学大学院医学研究科に入学し、主に血栓症および静脈血栓塞栓症を中心とした臨床研究を行った。2019年に博士課程を修了し、医学博士を取得。2021年：京都大学医学部附属病院 循環器内科 特定助教。2023年：京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 助教を拝命し、臨床医として医療現場で働きながら、そこで出会う様々な疑問を研究を通して解決する事を目指している。特に、臨床研究での経験を通して、今後、医療では個別化医療を目指した精密医療（Precision Medicine）が重要となると感じ、循環器領域での遺伝疫学の研究を開始している。



安井碧 YASUI Midori

京都大学大学院工学研究科／

都市環境工学専攻環境システム工学講座／助教

研究分野：環境工学

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻。博士（工学）。2021年4月より日本学術振興会（DC2）、2022年にミシガン州立大学にて短期研究員、2023年に博士号取得後、同年4月より現職。安全な水利用のために、病原微生物（細菌・ウイルス等）の水処理における除去能の評価や水道水源中での存在実態の調査などの研究を行っている。



マリン エリア ELIA Marin

京都工芸繊維大学研究科／准教授
研究分野：生体材料工学

マリン エリアは、京都工芸繊維大学の生体材料工学研究室の准教授であり、材料科学の専門家です。研究テーマは、3Dプリンティング技術を用いた生体適合性材料の開発と、その構造・機能特性の評価に焦点を当てています。特に、金属および高分子材料を用いた骨組織工学用スキャフォールドの設計、バイオアクティブ添加剤の利用、ならびにラマン分光法を用いた生体材料の評価を行っています。



後藤龍太郎 GOTO Ryutaro

京都大学フィールド科学教育研究センター／助教
研究分野：海洋生物学、進化生物学、生態学

2012年、京都大学人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士（人間・環境学）。海洋生物の多様性、共生、進化について研究を進めている。東京大学大気海洋研究所での日本学術振興会特別研究員PD（2012–2015年）、ミンガン大学進化生態学研究科での日本学術振興会海外特別研究員（2015–2017年）を経て、2017年より現職。日本ベントス学会奨励賞、日本動物学会奨励賞、日本進化学会研究奨励賞、文部科学大臣表彰若手科学者賞などを受賞。



樋口 嵩 HIGUCHI Takashi

京都大学複合原子力科学研究所／助教
研究分野：素粒子物理学、原子核物理学、中性子物理学、原子物理学

低エネルギー中性子と反陽子を用いた基礎物理実験を中心に研究を進めています。また、京都大学が日本原子力研究開発機構および福井大学と共同で推進する新試験研究炉における素粒子・原子核物理学実験装置の検討にも携わっています。現在進行中の国際共同研究を基盤として、研究用原子炉を活用した素粒子・原子核物理学の国際的な研究コミュニティの形成を目指しています。



糸田昌宏 KUMETA Masahiro

京都大学大学院生命科学研究所／助教
研究分野：音響細胞生物学、生物物理学

2004年京都大学総合人間学部卒、2010年京都大学大学院生命科学研究所にて博士号取得(生命科学)。同年より現職。2024年よりJST さきがけ兼任。

主に分子・細胞レベルの生命科学に従事し、これまでに細胞骨格・細胞核・一次繊毛などの細胞内構造体が適時適切に機能を発揮するための分子基盤を追究してきた。近年、音波に対する細胞応答の研究を進め、生命と音の根源的関係を追究するとともに、音波を用いたバイオテクノロジーの可能性を追求している。



増田容一 MASUDA Yoichi

大阪大学工学研究科附属フューチャーイノベーションセンター／助教
研究分野：制御工学、ロボティクス、生物、解剖、生体模倣

2019年大阪大学大学院工学研究科機械工学専攻博士後期課程修了。同年大阪大学大学院工学研究科助教。2021年大阪大学大学院工学研究科 附属フューチャーイノベーションセンター助教、大阪大学大学院工学研究科 機械工学専攻 助教(兼任)となり、現在に至る。制御工学、移動ロボットの研究に従事。



高橋知子 TAKAHASHI Tomoko

京都大学東南アジア地域研究研究所／助教
研究分野：政治学(国際関係論)、国際制度論、東アジア、グローバル・サウス

京都大学の助教。国際関係論の分野において、国家の視点から国際制度を研究し、特に中国、日本、グローバル・サウスに焦点を当てている。内容としては、規範の提案行動の力学について、パワー・ポリティクス、国家の自律性、連合政治、国際官僚機構の文脈で研究している。方法論としては、統計分析、多言語のアーカイブ調査、インタビューを用いている。東京大学にて学士号(2016年、法学)、修士号(2018年、学術)、博士号(2023年、学術)を取得し、シカゴ大学では修士号(2020年、国際関係論、卓越)を取得。また2017年にはジュネーブの国際開発研究大学院に訪問学生として在籍した。2023年9月から10月にかけて、WZBベルリン社会科学センター(グローバル・ガバナンス・ユニット)の客員研究員を務め、2024年からはマンズフィールド財団・日本国際交流基金の日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク・プログラム第7期生を務める。



田代藍 TASHIRO Ai

京都大学大学院人間・環境学研究科／特定准教授
研究分野：健康地理学、災害疫学

2021年3月東北大学大学院環境科学研究科先端環境創成学専攻博士課程修了。徳島大学大学院医歯薬学研究部医学域助教、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属 教養教育高度化機構特任助教、同大学未来ビジョン研究センター特任講師を経て、2024年6月より現職。気候変動や自然災害に脆弱な地域を対象に、近隣の自然資源や自然環境を活用したまちづくりが、人の健康・wellbeingにどのような影響や効果があるのか、について研究しています。



ターン有加里ジェシカ

THAM Yukari Jessica

神戸大学人文学研究科／助教
研究分野：社会心理学

東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻博士後期課程修了。博士（社会心理学）。2023年10月より現職。人々が集団内で資源や負担を分け合うとき、どのような分け方を公平だと見なしやすいのか、実際にはどのように分けやすいのかについて、経済ゲーム実験などを用いて研究している。第12回育志賞、日本心理学会第87回大会優秀発表賞、日本グループ・ダイナミクス学会第69回大会優秀学会発表賞、日本社会心理学会若手研究者奨励賞など受賞。



宇治梓紗 UJI Azusa

京都大学大学院法学研究科／准教授
研究分野：国際政治経済学、グローバル・ガバナンス、環境政治

2012年京都大学法学部卒業、2012年京都大学大学院法学研究科修士課程修了、2018年同大学院博士後期課程修了後、同研究科助教、講師を経て2021年11月より現職。その間、ハーバード大学、チューリッヒ工科大学にて在外研究。2019年に松下正治記念学術賞受賞。主な研究テーマは、環境政策をめぐる民意、国際環境条約、環境ガバナンス。国際環境制度や国内の環境政策の背後にある政治対立構造、政治的に合意可能な制度・政策のあり方や合意条件について、学術的理論に立脚しながら、質的・量的データに裏付けられた実証研究を行う。最近では、プラスチック汚染をめぐる条約や政策の動態について研究を手がけている。

発行者 京都大学若手研究者戦略育成拠点
発行日 2025年6月1日